

NYの日常描く

米の画家が個展
30日まで中央区



絵や写真などのオークションを開いて米同時多発テロの被害者支援に取り組んだニューヨークの画家トム・クリストファ一さん(50)の個展が、中央区城見1丁目のギャラリー「ためなが」で開かれている。写真。クリストフアーさんは朝日新聞の取材に対し「崩壊した世界貿易センタービルは、アメリカの移民受け入れ

で、自由の女神に代わる20世紀のかがり火のような存在だった」と話している。

ニューヨークをテーマにしているクリストフアーさんは、97年には町の美化運動を呼びかける当時の市長に協力して、マンハッタンの人が集まる一角に縦7呎、横68・6呎の壁画を制作した。タイムズスクエアの雑踏や

タクシーのイエローキャブの列など、ふだんの光景を鮮やかな色彩で描いている。世界貿易センタービルの絵はオークションに出され、人気を集めたという。

個展はアクリル画約30点を展示。入場無料。30日まで。問い合わせはギャラリー「ためなが」(6949・3446)へ。